

## 2019年度理系チャレンジ講座（第2回）を実施しました

6月19日（水）に医学部看護学科の吉良いずみ先生を講師に迎え、「看護と健康～看護学の視点から～」というテーマで、理系チャレンジ講座の第2回を実施しました。遠隔配信した白杵、安心院、大分雄城台、中津南、国東、大分鶴崎、大分西、別府翔青、竹田、日田および来学受講した大分南、大分東明の12校341名が受講しました。

先生は「どの年代にも必要な健康」について考えながら、看護学の概要についてお話してくださいました。

まず、看護の目的はすべての人々、社会を対象とし、対象の自然治癒力を発揮しやすい

環境を整え、その人らしい生を全うできるよう支援することであること、そして、看護学とは、人の生や死を支えることを学問的に考え、発展を繰り返してきたものであることを説明されました。看護学は実践の学問であり、コミュニケーションを取りながら進めていくものであるとおっしゃいました。



次に、健康であることの定義についてこれまでの変遷をお話しされました。以前は「弱った状態ではない」ことを健康と定義されていたが、現在は「人間の尊厳が保たれていることやよりよく生きることが保証されている状態」であるという考えも提案され、認識されており、病気があるから不健康だという認識は変わりつつあるとのことでした。

また、健康と病気については「健康と疾病は連続するもの」「病気は回復過程」などの解釈があり、看護は本人の自立を支援する立場をとるため、「その人」を理解することが必須であるとおっしゃいました。



最後に、健康を取り巻く課題を考え、健康に生きる、自身の考える健康に向かい主体的に行動する、すなわち、よりよく生きて欲しいとのメッセージをいただきました。

授業後に実施したアンケートでは「総合的に判断して授業がよかった」(99%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(99%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」(99%)という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」(87%)、「映像はよく見えた」(92%)という結果が出ました。